

事例
No.216**雑賀崎地区連合自治会****《組織について》**

各町内から選出された自治会長が15名と、民生委員の有志5名との連携にて、構成員数が20名（現実働数12名）のローテーションを組み、学童と高齢者に安全な町づくりを活動中です。

《組織の設立経緯》

平成26年度（H26.4.10）雑賀崎地区連合自治会の新役員引継式（兼第一回自治会会長会議）の席上にて、学童の登下校時の安全を守る「雑賀崎地区安全見守り隊」の発足がなされたが、その際に、高齢者に対する見守り活動の充実も発案され実施されるに至った。

活 動 内 容

別紙のような雑賀崎地区安全見守り隊のユニホームを着用して、毎週3回（火・水・木）学童たちの安全な登下校時の見守りと、その際に会える高齢者の方々に「おはよう…元気そうやね！」の挨拶運動の展開や、県道や市道の急傾斜地（階段・坂道）の保全を通じ、転倒や転落防止の手摺りや防御柵の増設を依頼（市担当課へ）し、高齢者への安全保持に努めています。

工 夫 ・ 問 題 点

日々の活動には、地域安全の観点から、学童と高齢者への犯罪防止の抑止力となるよう意識的に明るく声かけして、交通事故、振込詐欺、悪徳業者の不法請求防止などに気を付けるよう呼びかけています。

活 動 予 定

以前から継承実施している、自治会主催の「敬老会」の更なる充実や、防災への支援（特に津波対策）活動など地域住人のボランティア意識の向上に取り組みたいです。

その他写真等

